



12 馬図

伝任仁発

一幅

中国・元時代(十四世紀)

絹本着色

本紙二九・六×三六・一

中央アジアの騎馬民族と深く関係して国の歴史を紡いできた中国では、早くに馬に騎乗して禽獣を捕獲する狩獵図が多く描かれ、権威ある王朝が成立してからは、優れた馬を保持することが権力の象徴の一つともなり、肖像的な馬図も描かれてきた。盛唐期、玄宗皇帝は大変、馬を好み、宮廷の厩は四十万匹にもなったというが、その宮廷の馬を描いた韓幹(七〇六頃～七八三)は画馬の名手として知られる。彼の描いた馬は後代の典型とされて大きな影響を与え、北宋時代には「五馬図卷」のような名画を残した李公麟(一〇四九～一一〇六)もまた、画馬の大家であった。

本図の作者とされる任仁発(一二五四～一三二七)は、水利の学者でもあり、韓幹、李公麟の馬図の作風を継承した画馬を良く描いた画家である。本図は、美しい馬鞍などで飾り立てられた端正な馬の姿を描くもので、このような飾り馬は、皇帝の騎馬の様子を表した画巻に描かれることが多い。馬の描写は写実的で、鬃などは細い筆線で丹念に描かれている。こうした中国画が日本の馬の描写等に与えた影響は少なくない。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan